

2024 年度第 4 回ふれあい講座実施報告

実施日時

2024 年 12 月 13 日(金)19:00～20:30 JICA 沖縄体育館

来場者数 一般参加者 50 名、研修員 13 名、関係者 8 名

JICA 研修員(出身国)
【ICT 強化のためのコア人材育成(A) コース 6 名】 Mr. オサム (アルジェリア) Mr. アリ (コートジボワール) Mr. モハメド (ヨルダン) Mr. エリア (ナウル) Mr. グレロ (スリランカ) Mr. ノエル (タンザニア)
【ICT 強化のためのコア人材育成(B) コース 7 名】 Mr. サルジス (アルメニア) Mr. ドレル (グレナダ) Ms. マリア (トンガ) Ms. ピュリティー (ウガンダ) Mr. ハリー (バヌアツ) Mr. ライド (イエメン) Mr. カワナ (ザンビア)
当日の様子
研修員の自己紹介から始まり、「クイズタイム」の代わりに研修員の出身国や文化、習慣に興味をもってもらえるよう、参加者は「インタビューシート」を片手にゲストスピーカーに様々な質問をしました。 市内から参加した女性はコートジボワールのアリさんから、一夫多妻制について話を聞き、彼に奥さんが 2 人、子どもが 8 人おり、さらに彼のお父さんは 7 人の奥さんがいると聞いて大変驚いていました。 ヨルダン出身のモハメドさんは、ひよこ豆を使った料理「フムス」や、塩味で食べるヨーグルトのことを話してくれ北谷町から来た女性に食文化の違いを伝えたり、ドレルさんは、地図を使ってグレナダの位置を説明したり、沖縄と緯度が近いこと、気候や美しいビーチ、海岸線、マリンスポーツなど島国としての共通点が多いこと、またスパイスの生産が盛んな地域であることを紹介しました。 アメラジアンスクールに通う 9 歳の男の子は得意の英語を使い、「家族構成」「好きな食べ物」「沖縄で訪れた場所」等、たくさんの質問をすることができ、とても満足そうに話していました。 折り紙コーナーでは、シニア世代の女性が子どもたちに折り方を教えたり、折鶴を研修員にプレゼントしたりする姿が見られる他、13 ケ国のブースでは、参加者の質問に研修員が答えるだけでなく、自身の携帯で動画や画像を見せたり、握手したり、笑い声があふれる温かい交流が見られました。 パフォーマンスタイムでは市内在住の小学 4 年生の男の子が力強い空手の「型」を披露し、中城村の「ときわ道場」に通う男の子と女の子が「型」や「棒術」の演舞を行いました。研修員たちは動画や写真を撮影しながら、目の前で沖縄の伝統芸能を体感しました。次にサルジスさんはアルメニアのダンスを、ウガンダ出身のピリュティーさんはアフリカンダンスを披露すると、参加者も総立ちでダンスを真似て一緒に踊り、大いに盛り上がりました。 最後は全員が国旗の周りに集まり、カチャーシーがスタート。シニア世代が手の運び方を研修員に教える姿があちらこちらで見られ、イベントは大盛況のうちに幕を閉じました。
パフォーマンスタイム出演団体
小林流小林館ときわ中城道場： 新垣 レイミ、新垣 シホ、安里 ユウキ、末吉 キラト、城間 ユウタ
個人： 木村流訪韓(石川 アラタ)

